

神名帳

※『遠山霜月祭 〈南信濃②木沢地区編〉』（飯田市美術博物館・遠山常民大学 2011）より引用、加工
※ 実際には、第一の途中、「夜おどろきなく」から第二までは奉読されていません

〈第一〉

こはそもあたりきたり年月良き年 ねんぐう吉日初り申したたいおんとし 月日のならば
が十二ヶ月日の行く数が三百六十四ヶ日 ことにもとりわけ今年ことし霜月朔日初り申し
九日あたり十日 の夜に子丑がいらて神にりょうみょう 仏に和合がつき 天の白金に花
が咲き 地に黄金吹き立ち上ぼり 龍神の御扉は開き 平は治まる 祈りは叶う かみか
とかみたち りょうみょうが神のこくを取り上げ申して申さんことは 雀の千声より鶴の
一声 聞き入れ納受奉り候へと 謹んで敬って申す。

信濃の国下伊那郡江儀の郷遠山の庄木沢村に 御建ちはやらせたまう八社の神 この湯の
上へ招じ勧請申し奉る。

大日本六十余州大小の神祇御前どころに千道 八つ橋 十六天ひなの御前に引き上げて申
し 八人の八乙女 五人の神楽男 うち揃えて 御舞い処たしなみ申して 聞き入れ納受
奉り候へ。それ天のおふむは羽がえを並べ 翼を揃え 土は踏むしはところを定め 外峯
が奥にさをしか八つのお耳に そびらの鈴耳にふるうが如く 八社の御神の御舞処をたし
なみ申して申さんがため 宮守神主神子の末までも 流れの冷水を衣とし 岩のはげせに
ははんじゅう たたみにまるねをいたし 松野はよりもなお細き 柳の葉よりもなお長き
たんぜいのはごみを申し こうみの酒に紫の御りょう 白金や小金のさんごう鮮やかに御
開きたまえば 御舞処をたしなみ申して 三世の祖仏に賜るならば 信者 聞く者 玉の
御宝殿までも 聞き入れ納受承り候へと敬って申す。（※以降、第二までは奉読されない）

夜おどろきなく 昼は騒ぎ無く 夜をばとちゅう 昼をばまちゅう たいどうにつまげな
く 志んのまくらに傾きなく ますみの鏡曇りなく はこにてちりを寄るが如く 爪のつ
るつる玉の枝までもお守りたまわり候へ。変わる明年は紙ぞかわりて 春の種おろしにと
りては 芽にては強く 葉にては広く 殻が七尺 穂が三尺 実入りを申さば 石が要の
しょうぞくとなって 秋の田はちまちに千束ままちに万束刈り収め ここ夜ここぬかのか
ずのつつえをとりや整へ 大米千びつ 小米千びつ 良い酒先瓶 とりや整へあげまいら
すほどの 御りょうを賜り候へ。のこるところをいいつつにかしげ鳳来山の山となる。酒
につくれば南海の海となる 飲めども減らず 酌めども尽きずてありさねほどの 御りょ
うをたまわり候へ。商いみょうが賜るならば 朝商いが十万メ 昼商いが十万メ 夜商い
が十万メ 合わせて三十万メの宝を売り止め申し 買い込み申し 重き宝は蔵の下積み
軽き宝は蔵の下積みをばはごくむ程の 御利しよ得を賜り候へ。むしゃの宝を賜るならば
春の蚕が十六ぜん 夏の蚕が十六ぜん 合わせて三十二ぜん 白かの御神よごの起き伏し
難なく癖なくつつがなく 起き伏せたまう よきおんしょうの つるのこはげせつくらせ
たまへ。前なるかもや かわらの女石男石を在る如くにつくらせたまへ。それ六月の上旬
には わたむき上手にわたむかせ 糸とり上手に糸とらせ ももの上手に綾や錦をおらせ
奈々枝のみとちやう かけまいらす程の御利生をたまわり候へ。残るきぬをば神へまいる
に 十二の衣の袖をそろへ 仏にまいるに十二のつまをそろへ まいるにいきみ 下向き

にくわんとく 上にはつかへ 下には万人にふしあふがれる程の御利生をたまわり候へ。
遠くの人はいてうやまい 近くの人を見て楽しむ程の御利生をたまわり候へ。遠くにき
くべしかすみから風 たほうの風は七里がなかへあいや鎮め 天満神天へまきあげ すそ
満神は土へふみやしずめん 七里が中十二ヶ方ゑからの里 福の里をまもりたまわり候へ
とつゝしんでうやまつて申し しらがの袖が木にかかり だんびら長者 かも長者とうや
まつて申す

〈第二〉

冬来ると誰かや告げつら「やいは」北の国といよ ああ北国の時雨と告げし「やいは」山
てめくるは山を恵みて敬って白。須弥の神主参り来り 三条の座になほり 大音の声を小
音にあげ 小音の声を大音にあげ申さんことは 聞き入り納受承り候へと謹んで敬って申
す。よき年号吉日始まり申す。年がなかにてこんれい今年月がこの月 日は今日今日 只
今がこくと申すは ことにとりわけ霜月朔日に初より申し九日にあまり朔日 時只今巳午
がいたりて 神にりょうみょう仏に和合がつき 天に白金の花が咲いて地に黄金が吹き立ち
上ぼり 龍神は御扉を開ける 平は治まる祈りは叶う 神かとりよう明が刻と申さんこと
は 雀の千声よりは鶴の一声 聞き入れ納受御垂れ賜れ候へと謹んで敬って申す。

信濃の国下伊那郡遠山の庄木沢村におん立ちはやらせ給う 八社の御神 正八幡宮 天白
まで 只今此のみしめのうち 湯の上のみすへ請じすゝまして申す。さいはいさいわいと
敬って申す。

神はひくう天にまします 中には無辺法界 下には金々輪財界南淵武州大日本五畿七道の
明星王 護りの鎮守八幡三社 加茂げしゃう 稻荷 祇園 大原春日 住吉 日吉 松尾
の吉田 平野 北野北野御山天神 きぶねの山々 宇都の宮 山王七社の宮までも これ
まで請じ奉る。

惣じて大日本六十六ヶ国の大小の神祇を奉請 高き大神は五万五千五百五十余神の古い眷
属 ひくきは十万五千五十余神等の古い眷属 惣じて天は二十八宿 地は三十六神の大小
の神祇 奉請並びに大どくうこうの神の古い眷属 かんこかいらいまでも謹んで敬って申
す。にわなかにさがりがまたて「やいは」けいといよ はあ今日九日 玉の御神楽まいら
する。

〈祝詞〉

掛卷母畏伎産土乃神等乃御前爾奉賛会々長波氏子総代【某】慎美敬比畏美畏美母白佐久今日波志母
毎年乃常乃例乃任爾任爾故礼御前献奉留御食御酒乃多米津物乎置定伎足波支天御祭り仕奉良久波皇命
乃大御代乎伊加志乃足御代乃祝比奉里幸奉給比天下安久平穩爾大神乃宇期波技坐寸氏子等我己母己
母力為須産業乎弥進々女弥足志加足波志女子孫八十統乃弥足牟久佐加仁立栄志米給開大神乃廣枝厚枝
恩頼蒙良志女給開刀畏美畏美母祈願奉良久刀白須

〈延喜式神名帳〉

延喜式神名帳

大小神祇三千一百三十二座

山城国 百二十座一乃宮

大和国 二百八十六座一乃宮

河内国 百十三座一乃宮

和泉国 六十二座一乃宮

摂津国 七十五座一乃宮

以上五畿内五箇国 コレマデ降神奉ル

伊賀国 二十五座一乃宮

伊勢国 二百五十二座一乃宮

志摩国 三座一乃宮

尾張国 百二十一座一乃宮

三河国 二十六座一乃宮

遠江国 六十二座一乃宮

駿河国 二十二座一乃宮

伊豆国 九十二座一乃宮

甲斐国 二十座一乃宮

相模国 十三座一乃宮

武蔵国 四十四座一乃宮

安房国 六座一乃宮

上総国 五座一乃宮

下総国 十一座一乃宮

常陸国 二十八座一乃宮

以上東海道十五箇国 コレマデ降神奉ル

近江国 百五十五座一乃宮

美濃国 三十九座一乃宮

飛騨国 八座一乃宮

信濃国 四十八座一乃宮

上野国 十一座一乃宮

下野国 十一座一乃宮

陸奥国 百座一乃宮

出羽国 九座一乃宮

以上東山道八箇国 コレマデ降神奉ル

若狭国 四十二座一乃宮

越前国 百二十六座一乃宮

加賀国 四十二座一乃宮

能登国 四十三座一乃宮

越中国 三十四座一乃宮

越後国 五十六座一乃宮

佐波国 九座一乃宮

以上北陸道七箇国 コレマデ降神奉ル

丹波国 七十一座一乃宮

加茂神社

三輪神社

枚岡神社

大鳥神社

住吉神社

敢国神社

椿神社

伊射波神社

大神神社

砥鹿神社

事任神社

浅間神社

三嶋神社

浅間神社

寒川神社

氷川神社

洲崎神社

玉前神社

香取神社

鹿島神社

建部神社

南宮神社

水無神社

南方刀美神社

拔鉾神社

二荒山神社

都々古和氣神社

大物忌神社

遠敷神社

氣比神社

白山神社

氣多神社

高瀬神社

伊夜比古神社

波津神社

出雲神社

丹後国 六十五座一乃宮

但馬国 百三十一座一乃宮

因幡国 五十座一乃宮

伯耆国 六座一乃宮

出雲国 百八十七座一乃宮

石見国 三十四座一乃宮

隱岐国 十六座一乃宮

以上山陰道八箇国 コレマデ降神奉ル

播磨国 五十座一乃宮

美作国 十一座一乃宮

備中国 十八座一乃宮

備前国 二十六座一乃宮

備後国 十七座一乃宮

安芸国 三座一乃宮

周防国 十座一乃宮

長門国 五座一乃宮

以上山陽道八箇国 コレマデ降神奉ル

紀伊国 二十一座一乃宮

淡路国 十三座一乃宮

阿波国 五十座一乃宮

讃岐国 二十四座一乃宮

伊予国 二十四座一乃宮

土佐国 二十一座一乃宮

以上南海道六箇国 コレマデ降神奉ル

筑前国 十九座一乃宮

筑後国 四座一乃宮

豊前国 六座一乃宮

豊後国 六座一乃宮

肥前国 四座一乃宮

肥後国 四座一乃宮

日向国 四座一乃宮

大隅国 五座一乃宮

薩摩国 二座一乃宮

以上西海道九箇国 コレマデ降神奉ル

壱岐嶋 二十四座一乃宮

対馬嶋 二十九座一乃宮

右二島 コレマデ降神奉ル

籠守神社

出石神社

宇部神社

倭文神社

杵築神社

物部神社

由良姫神社

伊和神社

中山神社

吉備津神社

吉備津神社

吉備津神社

巖嶋神社

玉租神社

住吉神社

日前神社

伊弉諾神社

大麻比古神社

田村神社

大山祇神社

都佐神社

宮崎神社

高良玉垂神社

宇佐神社

杵原神社

与止日女神社

阿蘇神社

都農神社

鹿兒島神社

和多都実神社

天手長男神社

和多前美神社

総天天地海原乃天都神国都神八百万能神等大八嶋乃国々嶋々爾鎮座坐須千五百万乃神等乎勸請志
奉留洩落牟事乃在乎波神直日大直日乃見直志聞直志給比天谷米給波須崇里給波須常磐爾夜乃守里日乃守里
爾守里衿美幸開給開刀畏美畏美母白須